

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月13日

協議会名： 安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
南安タクシー(有) 安曇観光タクシー(株) あづみの第一交通(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通「あづみん・のーと安曇野」の区域型運行。 ・地域間幹線系統路線に接続する7系統を運行。 ・車両減価償却費国庫補助金(南安タクシー(有) 2台)を受給。 	<p>デマンド交通について、利用者の増加および運行効率の改善を図ることを目的として、予約管理システムの定期的な改修を実施した。土日祝日を含めた通年運行を実施することで、来訪者等新たな利用者を徐々に獲得しつつある。</p> <p>安曇野市の地域公共交通の在り方について検討を進める中で、課題となっている山岳登山者駐車場の問題を解消するため、山岳路線バスの実証運行を行い一定数の利用ニーズがあることを確認した。</p> <p>また、デマンド交通に係る移動需要負荷を低減させるためのその他移動手段について導入可能性の検討を行った。</p>	A <p>当初の計画どおり事業を実施することができた。</p>	A <p>デマンド交通の年間目標利用者数を87,000人に設定していたが、R7事業年度の実績は100,010人で目標を達成した。</p> <p>前年度と比べると利用者数は約7,700人増加した。</p> <p>交通不便者(高齢者、障がい者)の移動に対して移動手段として認知されており、必要な供給量を確保できている状態だが、利用が集中する時間帯(特に朝と夕方)は供給量に対して需要が超過しており予約が取りづらい状況が発生している。</p> <p>デマンド交通を軸とした既存の交通体系に依存しすぎることなく、利用者ごとのニーズをとらえた移動手段の役割分担の必要性を感じており、在り方の再編成が求められている。</p>	<p>デマンド交通については、引き続き利用者の意見等を踏まえながら必要な改良・改善を行う。サービスの向上に努めつつ、費用負担や人材確保などの課題を踏まえた持続可能な交通手段となるよう検討を行う。</p> <p>上記とあわせて、市の地域公共交通の在り方について引き続き研究する。</p> <p>様々な移動ニーズについて最適な移動手段を検討し、関係者と協議の上、必要な実証運行等の実施を検討する。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月13日

協議会名：	安曇野市地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>安曇野市は長野県中央部西側に位置し、平成17年10月に5町村が対等合併して誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部及び平たん部から構成されている。人口は減少傾向が続いており、平成22年の国勢調査の人口96,479人と比べ、令和2年の同人口は94,222人となった。また、市全体人口に対する65歳以上が占める割合は約3割となっており、全国の多くの自治体同様、本市においても少子高齢化が進行している。</p> <p>当協議会では、本市の地域性を踏まえ、市全域でデマンド型乗合タクシー「あづみん・のーと安曇野」(以下「あづみん」と言う。)の運行を行っており、日中は高齢者・障がい者を中心として医療機関等への通院や買い物、福祉施設への移動手段を確保している。また、あづみんの運行前後の時間帯には、市外へ至る重要な公共交通であるJRの2路線間を結ぶ定時定路線バスを運行し、通勤・通学者の移動手段の確保を図っており、生活交通ネットワークを構築しているところである。</p> <p>当市では、令和5年3月に市地域公共交通計画を策定し、鉄道やあづみん、定時定路線バスを中心とした日中の生活交通の維持、充実及び朝夕の通勤、通学のための移動手段を確保、維持していくこととしている。特にあづみんについては、令和4年度中に運行の一部見直しを実施し利用者の利便性向上に取り組んでいる。予約方法の充実(スマートフォンアプリ、LINEからの予約を導入)や土日祝日の運行を行う(令和6年4月から)ことで、新たな利用者の確保に努めているところである。</p> <p>あづみんは平成19年10月の本格導入から19年目を迎え、高齢者、障がい者をはじめとする交通弱者の足として定着しているが、今後予想される高齢化の進行及び自動車免許自主返納者の増加により、公共交通としての必要性はより一層増していくと考えられる。また、観光客やビジネスパーソンなど、公共交通を利用して本市へ来訪される方の二次交通としてもより一層機能させていく必要がある。</p> <p>ドアツードア方式というサービスレベルの高さを広く周知することで利用者を確保し、市民の暮らし、来訪者の移動、生活を支える“足”となる持続可能な交通体系の維持、確保につなげたい。</p> <p>一方で、地域公共交通の担い手不足は深刻化しており、また多様化する利用者ニーズに対して既存の公共交通体系では十分に対応できない面がある。持続可能な地域公共交通の在り方について、今後さらなる研究、検討が必要である。</p>